

令和7年度 調査研究テーマ 研究代表者等一覧

大分類	目的	研究テーマ	研究概要	研究代表者	研究分担者
【大テーマ】 (1) 南海トラフ地震に関する調査研究	能登半島地震に派遣された職員を対象に以下のことを目的に実施する。 ①災害対応支援業務に関する事前説明及び引継ぎの実態を把握し、それらの業務への影響を各チームごとに評価し、今後の派遣や受援計画などに反映すべき項目を明らかにする。 ②派遣職員へのヒアリング・アンケート調査より得られる教訓を整理・分析し社会実装するための材料を提供する。	行政の支援・受援体制に関する研究	基礎自治体が被災自治体への応援職員派遣を通じて得た教訓の社会実装に伴う課題を明らかにするために、基礎自治体の社会実装を支援する立場にある都道府県の視点と、基礎自治体の視点という2つのレベルから得られた課題を統合的に分析することで、教訓の社会実装に関わる課題の構造を提示することを目指す。	工学研究科 川口 淳	岸江 竜彦（三重県職員） 鈴木 孝平（三重県職員） 藤原 宏之（伊勢市職員）
【大テーマ】 (1) 南海トラフ地震に関する調査研究	南海トラフ地震から三重県民の命を守るための実効性のある具体的な対策として、薄板軽量形鋼を用いてSDGsに配慮した従来よりも簡便で安価な防災ベッド型耐震シェルターの開発を、県内企業と共同で行う。	超薄肉軽量鋼構造による施工性と経済性に優れた耐震ベッド型シェルターの研究開発	これまでに薄板部材の座屈挙動と座屈後挙動を明らかにしているが、その境界条件は材端接合部の断面全体が支持された場合を対象としている。令和7年度は従来よりも実際に近い境界条件の検討として、せん断曲げを受けるウェブ支持された薄板部材の座屈耐力を有限要素法固有値解析によって明らかにする。	工学研究科 佐藤 公亮	志賀 裕太（工学部生） 川口 淳（工学研究科）
【大テーマ】 (2) 風水害に関する調査研究	気候変動が進んだ時代における治水計画／水防計画策定時に用いる目標設定手法の高度化を検討する。	治水・水防計画策定時に用いる目標設定手法の高度化に関する研究	気候変動の影響で水害が激甚化すると予想される将来における、治水計画策定、水防計画策定時に目標として使用する、確率降雨や確率流量の定め方の二つの手法を提案し、検討する。 （手法1）国交省や三重県県土整備部が現在既に使用している手法で、「降水量の母集団が定常であると仮定して求めた『確率降水量』を補正して使用する手法」 （手法2）徐々に気候変動が進むと仮定し、そもそも、過去数十年の間も、確率降水量が少しずつ変わって来たとするものである。「将来のそれについては、その変化傾向を将来に向けて外挿する」という手法	生物資源学研究科 葛葉泰久	倉田 美雪（生物資源学部生） 長谷川 真乙（生物資源学部生）
【大テーマ】 (2) 風水害に関する調査研究	拡張現実（AR）技術を活用した浸水没入体験が、水害および南海トラフ巨大地震による津波災害に対する危機意識の変化に与える影響を明らかにする。	水害に対する危機意識の変化に関する研究 - AR浸水没入体験の影響分析	防災講習会等の参加者を対象にAR（拡張現実）による浸水没入体験を実施し、水害および津波災害に対する危機意識への影響をアンケートで検証することにより、年齢、性別、地域特性、周辺環境などの属性を詳細に解析し、AR浸水疑似アプリを用いた体験が水害および津波リスク認識や防災行動の意欲に与える影響を評価する。	医学部附属病院 災害対策推進・教育センター 岸和田昌之	
【大テーマ】(3) 防災・減災一般に関する調査研究	地域防災力の向上につなげるため、防災・減災一般に関する課題を「見える化」する。	災害時における避難行動要支援者（特に在留外国人）に関する地域防災上の課題と有効な対応策に関する研究	防災訓練と防災関連の動画が日本に在住する外国人留学生に対してどのような効果を持つのかを検証するため、三重大学に在籍する留学生を対象に、大学実施の全学津波避難訓練および留学生向け防災訓練や防災関連の動画視聴の前後における意識の変容を確認するためのアンケート調査を実施し、分析することにより、留学生を含む在留外国人を対象とした効果的な防災訓練等の啓発活動のあり方を検討する。	地域イノベーション学 研究科 水木 千春	葛葉 泰久（生物資源学研究科） 塩冶 由貴（研究員） 刘畅（地域イノベーション学 研究科院生）